

2017年11月8日 全8頁

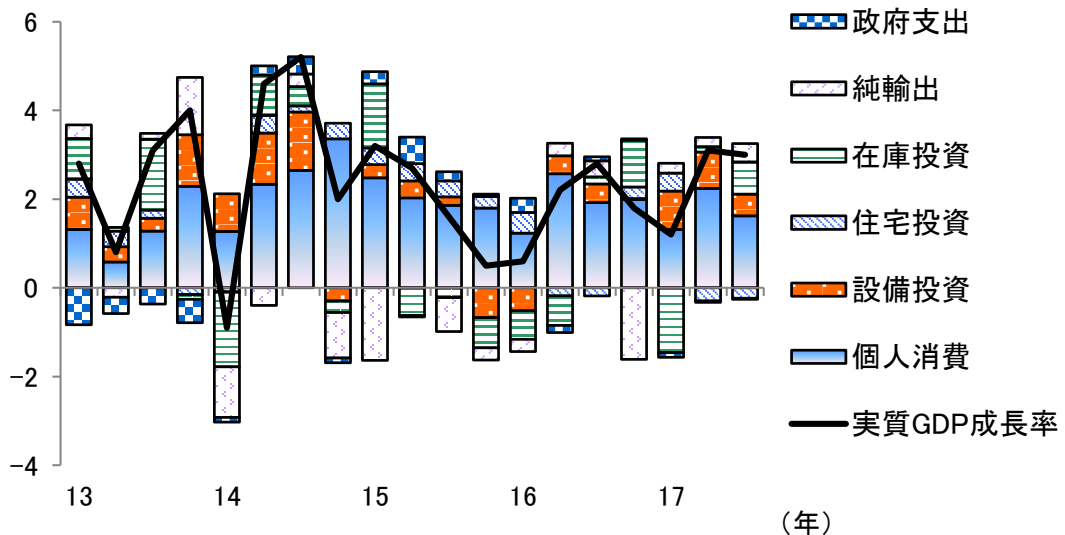
アメリカ経済グラフポケット (2017年11月号)

2017年11月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



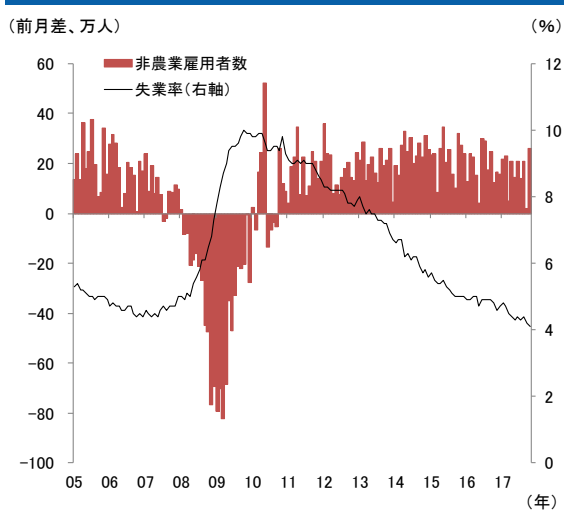
(前期比年率、%、%pt)	2015	2016				2017		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	0.5	0.6	2.2	2.8	1.8	1.2	3.1	3.0
個人消費	2.7	2.9	1.9	3.3	2.9	1.9	3.3	2.4
設備投資	-5.1	0.2	7.2	6.7	0.2	7.2	6.7	3.9
住宅投資	7.3	7.1	11.1	-7.3	7.1	11.1	-7.3	-6.0
政府支出	0.3	0.2	-0.6	-0.2	0.2	-0.6	-0.2	-0.1
輸出	-2.3	-3.8	7.3	3.5	-3.8	7.3	3.5	2.3
輸入	0.0	8.1	4.3	1.5	8.1	4.3	1.5	-0.8
寄与度								
個人消費	1.8	1.2	2.6	1.9	2.0	1.3	2.2	1.6
設備投資	-0.7	-0.5	0.4	0.4	0.0	0.9	0.8	0.5
住宅投資	0.3	0.5	-0.2	-0.2	0.3	0.4	-0.3	-0.2
在庫投資	-0.7	-0.6	-0.7	0.2	1.1	-1.5	0.1	0.7
政府支出	0.1	0.3	-0.2	0.1	0.0	-0.1	0.0	0.0
輸出	-0.3	-0.3	0.3	0.7	-0.5	0.9	0.4	0.3
輸入	0.0	0.0	0.0	-0.4	-1.1	-0.6	-0.2	0.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

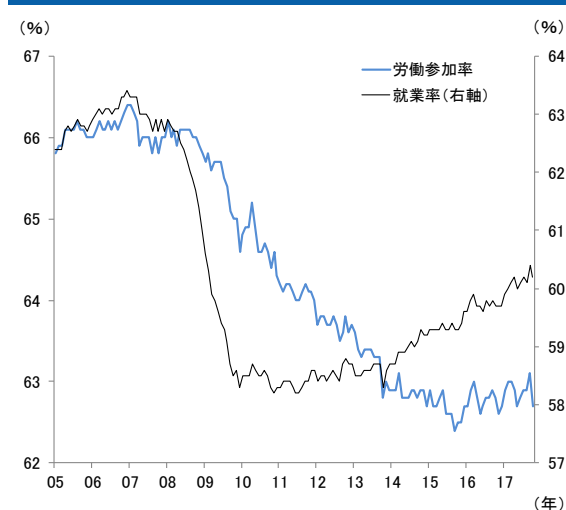
- ◆ 10月の失業率は4.1%と、前月から0.1%ポイント低下し、2000年12月以来の低水準となった。非労働人口の増加が主な押し下げ要因となった。
- ◆ 10月の非農業雇用者数の前月差は26.1万人増となった。前月の大型ハリケーンの影響が緩和されたことで、伸びが加速した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は16.3万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



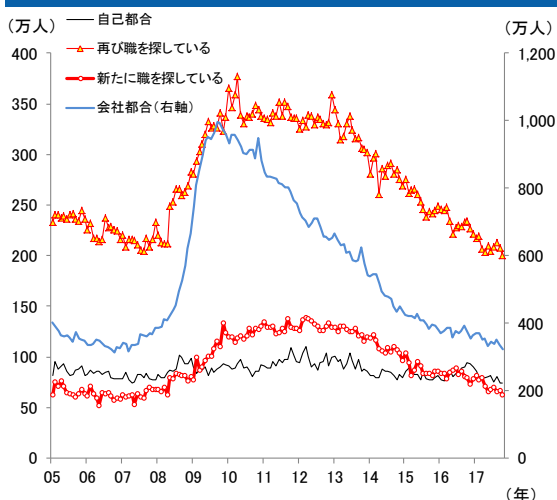
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



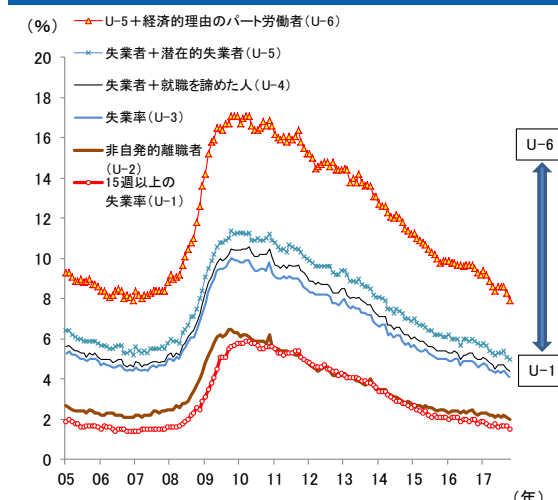
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



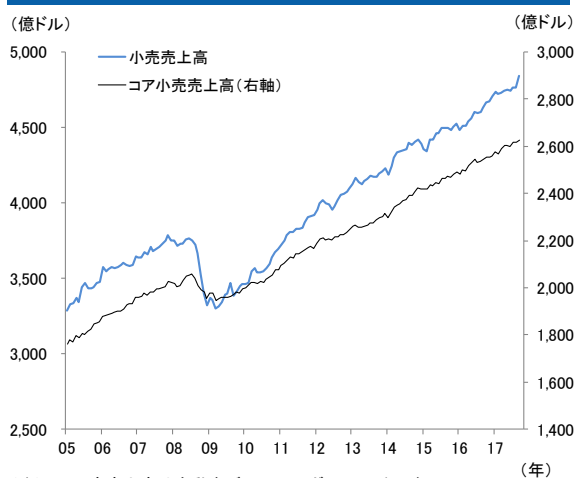
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「失業率の低下に反して、賃金が失速」(2017年11月6日)参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20171106_012427.html

個人消費

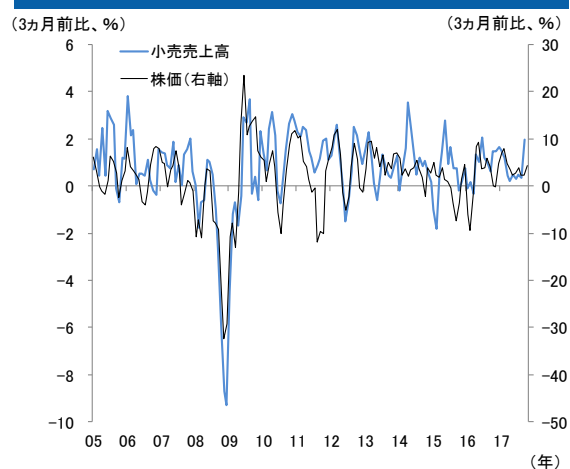
- ◆ 9月の小売売上高は前月比1.6%増加した。大型ハリケーン被害からの復旧による自動車販売の増加などが押し上げ要因となり、2015年3月以来の大幅な増加となった。コア小売売上高も同0.4%増と、増加に転じた。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比2.6%減少し、年率換算で1,809万台であった。前月からは減少したものの、大型ハリケーンで被害にあった自動車の買い替えの影響により、堅調な水準となった。
- ◆ 10月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の95.1から100.7へと上昇した。雇用環境の改善や株価の上昇を受けて現状指数と期待指数の双方が上昇し、2004年1月以来の高水準となった。

小売売上高の推移



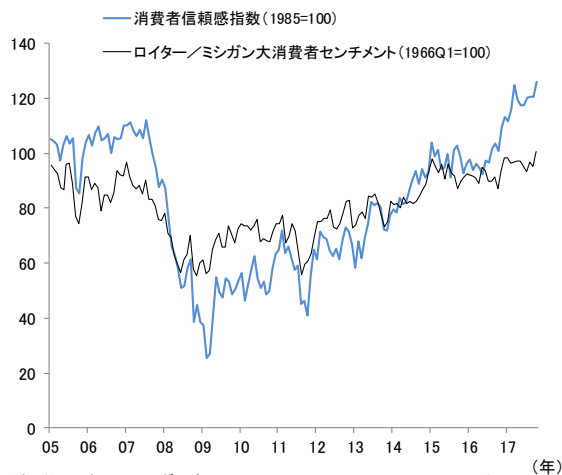
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、
建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより
大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

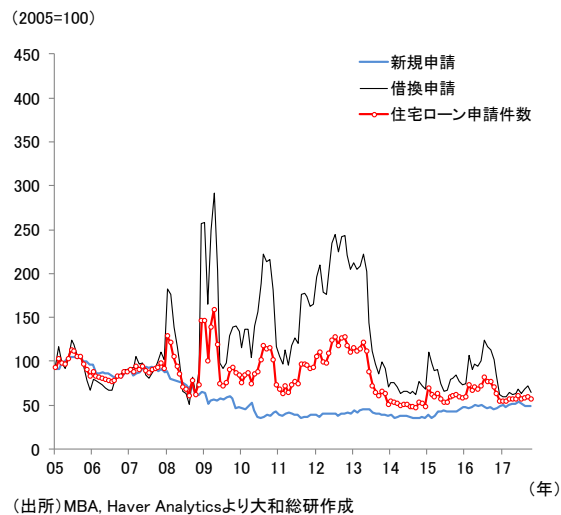
住宅市場

- ◆ 9月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比4.7%減の年率換算112.7万戸であった。3ヵ月連続で減少し、2016年9月以来の低水準となった。
- ◆ 9月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比1.1%増の年率換算479.0万戸であった。供給不足が長引いているものの、前月の大型ハリケーンの影響が緩和し、4ヵ月ぶりに増加した。
- ◆ 9月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比18.9%増と大幅に増加し、年率換算66.7万戸であった。中古住宅の物件不足から新築住宅の人気の高まり、2007年10月以来の高水準となった。
- ◆ 8月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から0.5%上昇した。住宅価格は低水準の在庫を反映し、上昇傾向が続いている。

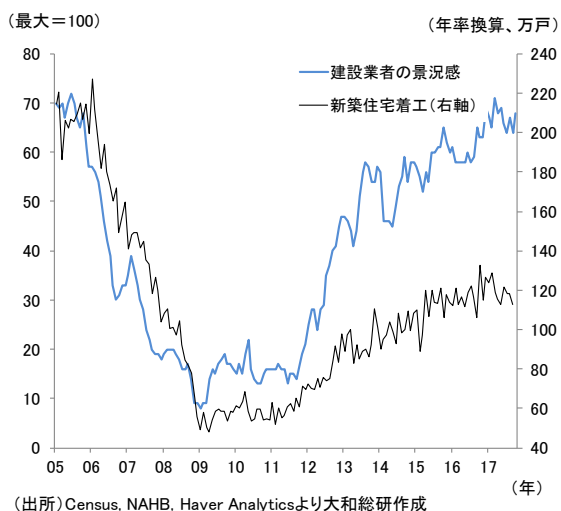
住宅販売（一戸建て）



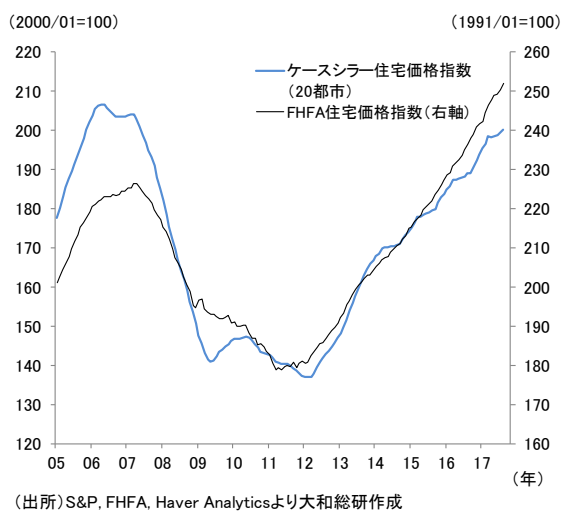
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



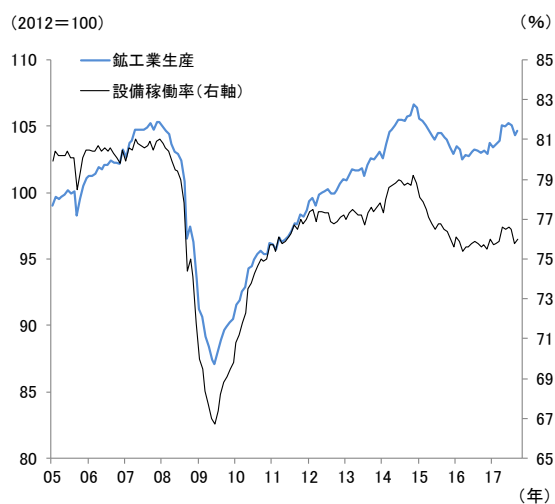
住宅価格



企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月比0.3%上昇した。大型ハリケーンの影響が緩和され、前月から上昇に転じた。指数全体の約75%を占める製造業(SICベース)が同0.1%上昇したほか、公益事業と鉱業も上昇した。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注(コア資本財受注)は、前月比1.7%増加した。前月と前々月がともに上方修正され、3ヵ月連続で増加し、堅調な推移が続いている。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、前月から2.1%ポイント低下の58.7%であった。2004年5月以来の高水準となった前月から低下したものの、高水準を維持している。非製造業指数は前月から0.3%ポイント上昇の60.1%で、3ヵ月連続で上昇した。両指標ともに拡大・縮小の分岐点である50%を大きく上回った。

鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



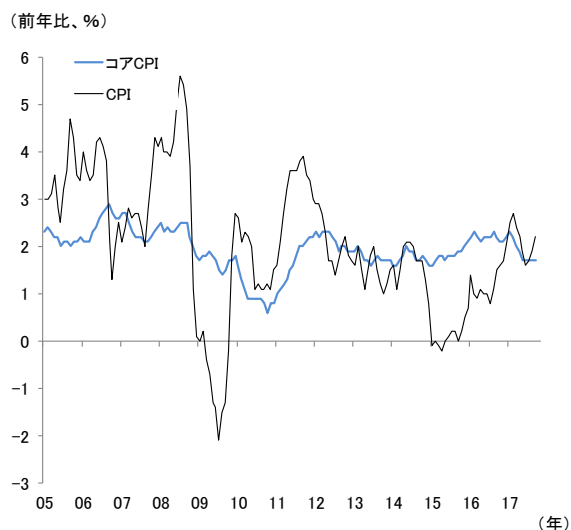
耐久財受注



物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.2%上昇し、前月から上昇幅が拡大した。コアCPIは同1.7%上昇し、5ヵ月連続で同じ上昇幅となった。
- ◆ 10月の2年先期待インフレ率は1.84%と前月から低下したが、5年先期待インフレ率は1.81%で前月から上昇した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は54.38ドル/バレルで、9月末の51.67ドル/バレルから上昇した。OPECなどの原油産出国の減産が延長されるとの見通しにより、2015年6月以来の高値となった。

消費者物価指数



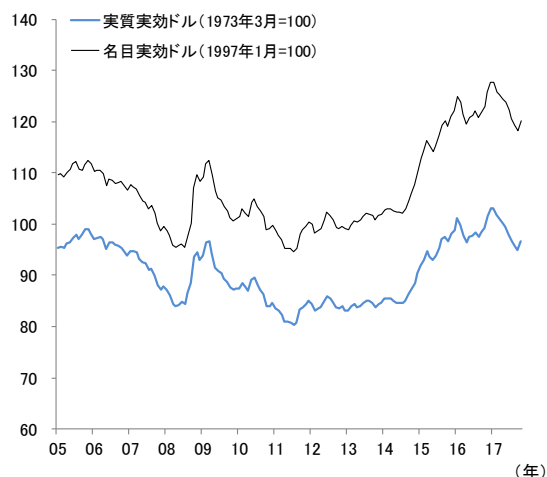
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

期待インフレ率



(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

コモディティ価格

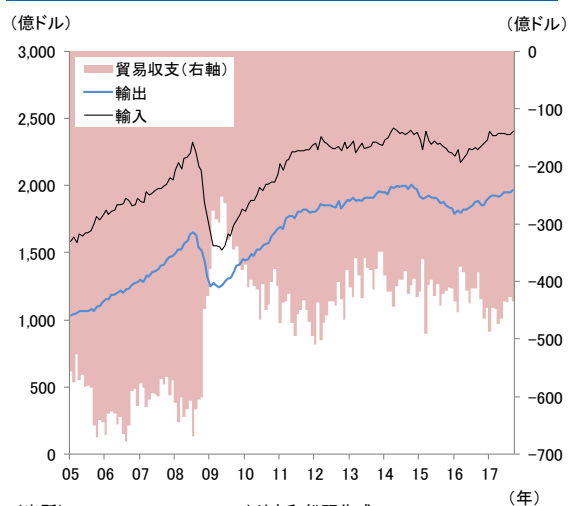


(出所)Wall Street Journal, CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

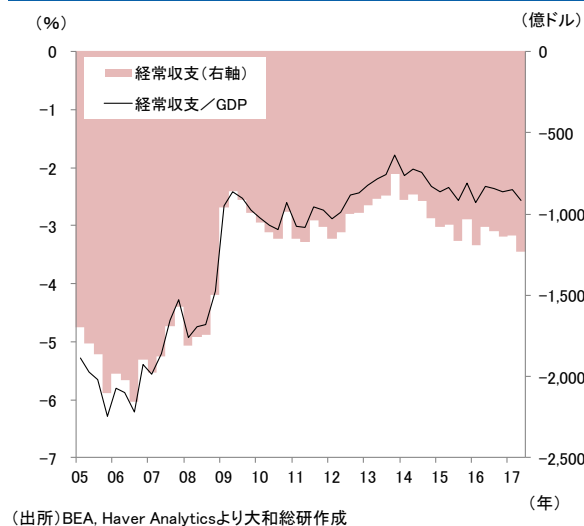
輸出入・経常収支

- ◆ 9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.1%増加し、輸入が同1.2%増加した。この結果、貿易赤字は同1.7%増加の約435億ドルとなった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では原油や非貨幣用金を含む工業用品・原料が増加し、輸入では半導体や民間航空機といった資本財の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比13.6%増、日本向けが同6.1%増加したほか、欧州向けも同5.0%増加した。輸入は、中国からの輸入が同8.1%増加し、欧州からの輸入が同6.0%増加、日本からの輸入も同4.0%増加した。

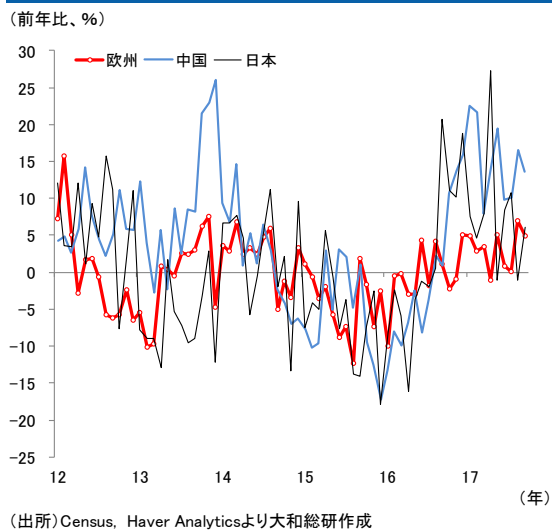
貿易収支動向



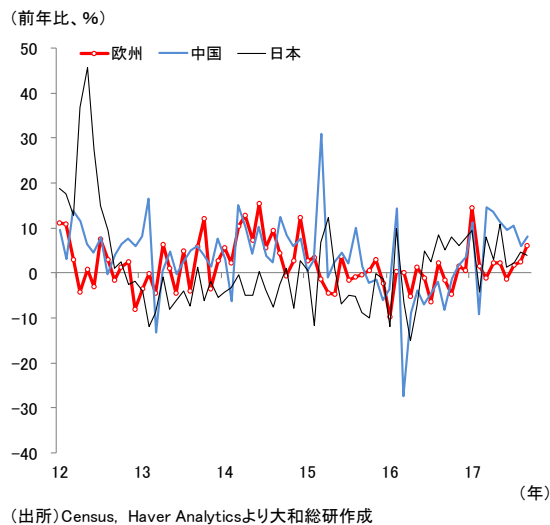
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



国・地域別輸入動向



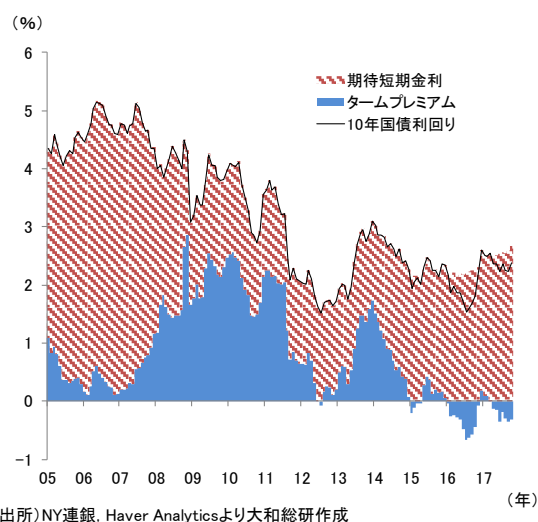
金融・財政

- ◆ 2017年10月31日-11月1日のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが据え置かれ1.00-1.25%とすることが決定された²。FRBの資産残高は、直近の11月1日の週平均が約4兆5,100億ドルであった。
- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.36%であった。予算決議案が可決され、法人税減税に対する期待が高まったことなどにより金利が上昇し、月中平均値は2017年3月以来の高水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、赤字幅が徐々に拡大しつつある。

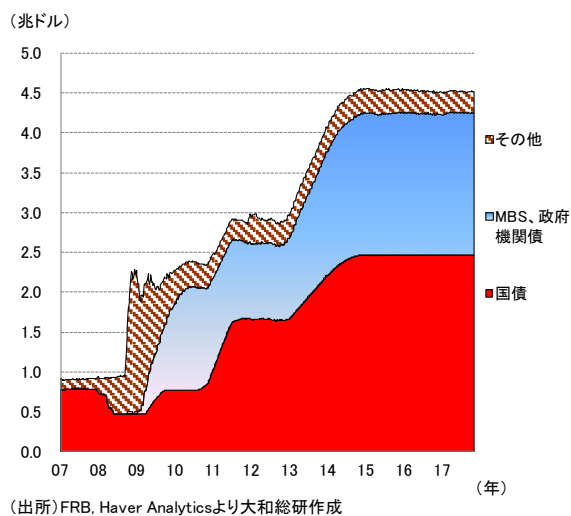
政策金利・長期金利



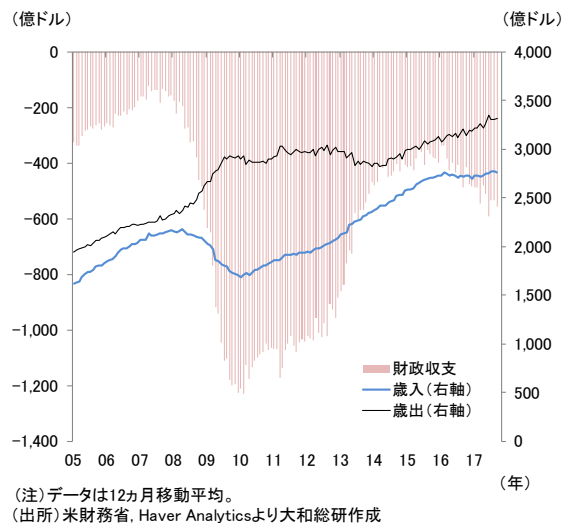
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「FOMC 景気堅調で12月利上げの公算大」（2017年11月2日）参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20171102_012424.html